

平成29年度
事業報告



長岡赤十字看護専門学校 災害看護論演習



青年赤十字奉仕団 夏季防災キャンプ



長岡赤十字病院 ドクターヘリ運行開始



国土交通省 荒川水防演習



新潟県・上越市合同総合防災訓練



赤十字防災ボランティア研修会

当支部は、昨年、創立130年を迎えました。
これまで支えてくださった県民並びに赤十字関係者
すべての皆さまに改めて感謝申し上げます。
今後も、皆さまのお力添えをいただきながら、
赤十字事業の更なる推進に努めてまいります。

平成30年6月 日本赤十字社新潟県支部



目 次

第 1 災害救護	1
1 国内災害対応	1
2 災害救護体制の強化と充実	1
3 災害救護装備・資機材の整備	4
4 救援物資の備蓄と配分	4
5 災害死亡者弔慰金の贈呈	4
6 災害義援金の受付状況	4
第 2 生命と健康を守る講習	5
1 講習会の開催	5
2 指導員等の育成	8
3 講習イベント	9
第 3 国際活動	10
1 日本赤十字社が実施する国際開発協力事業への参加	10
2 海外救援金の受付状況	10
第 4 赤十字ボランティア	11
1 赤十字奉仕団	11
2 赤十字防災ボランティアの育成と養成	12
3 赤十字奉仕団による子ども支援活動	13
第 5 青少年赤十字	14
1 人材及び教材等の支援	14
2 加盟校等の普及及び活動推進方策の協議	16

第6	広報活動	16
1	創立130周年にともなう広報活動	16
2	広報資材の配布	19
3	市町村等との連携による広報活動	19
4	赤十字運動月間におけるマスメディアを通じた広報活動	20
5	インターネットを活用した広報活動	21
第7	交通安全帽交付事業	21
第8	日本赤十字社新潟県支部 創立130周年記念大会	22
1	記念大会の開催	22
2	プレイベント	23
第9	活動資金の確保	24
1	赤十字会員の普及推進	24
2	活動資金（会費・寄付金）	25
3	企業・団体とのパートナーシップ制度	26
4	ハッピースマイルベンダー（募金型自動販売機）	27
第10	医療事業	28
第11	看護師養成	28
第12	血液事業	28

第 1 災 害 救 護

1 国内災害対応

日本赤十字社新潟県支部救護班要員等が出動する災害はありませんでした。

2 災害救護体制の強化と充実

地震・台風・大雨などの自然災害に対し、迅速な救護活動が展開できる体制を構築し、発災初期から復旧、復興まで一貫した救護対応ができるよう、訓練・研修を通じて、救護にあたる人材のスキルアップに取り組みました。

(1) 救護員の登録及び常備救護班の編成

※詳細は、資料編：統計「救護員の登録及び常備救護班の編成」に掲載

(2) 救護員等の訓練・研修会

ア 訓練

(ア) 日本赤十字社（新潟県支部・第2ブロック支部主催）

名 称	期日・開催地	参加者及び人数	内 容
日本赤十字社 第2ブロック支部 先遣隊要員訓練	7月26日～28日 埼玉県	新潟県支部先遣隊要員 2人	野営訓練 救護資機材の 取扱い習熟訓練 他
日本赤十字社 新潟県支部 救護員訓練	10月14日～15日 新潟市	救護班要員 57人 災害対策本部要員 8人 赤十字防災ボランティア 12人	医療救護訓練 ボランティア 活動訓練
日本赤十字社 第2ブロック支部 合同災害救護訓練	10月29日～30日 山梨県	救護班要員（救護班1班） 6人 災害対策本部要員 4人	医療救護訓練
日本赤十字社 第2ブロック支部 被災地支部災害救護訓練	3月9日 茨城県	新潟県支部災害対策本部要員 1人	被災地支部の 災害対策本部 運営訓練

(イ) 国・自治体等主催

名 称	期日・開催地	参加者及び人数	内 容
国土交通省 荒川水防演習	5月27日 村上市	救護班要員（救護班1班） 6人 災害対策本部要員 4人 村上市赤十字奉仕団員 10人 村上市神林地区赤十字奉仕団員 13人 胎内市赤十字奉仕団員 10人 村上無線赤十字奉仕団 3人 新潟県赤十字安全奉仕団村上市分団員 7人	水害時の 医療救護訓練 炊き出し訓練 防災教室
新潟県・上越市 総合防災訓練	9月2日 上越市	救護班要員（救護班1班） 6人 災害対策本部要員 5人 血液供給要員 3人 上越市赤十字奉仕団員 32人 新潟県赤十字安全奉仕団上越市分団員 7人	医療救護訓練 炊き出し訓練 防災教室
長岡市 総合防災訓練	10月22日 長岡市	救護班要員（救護班1班） 6人 長岡市赤十字奉仕団員 20人 長岡アマチュア無線赤十字奉仕団員 5人 新潟県赤十字安全奉仕団長岡市分団員 10人	医療救護訓練 炊き出し訓練 無線通信訓練 防災教室
海上保安庁旅客船 事故対策訓練	11月10日 新潟市	救護班要員（救護班1班） 6人 災害対策本部要員 3人	医療救護訓練

イ 研修会

名 称	期日・開催地	参加者及び人数	内 容
新任救護班要員 研修会	4月10日 長岡市	【研修受講者】 長岡赤十字病院 看護師 14人	災害救護活動及 び赤十字救護班 看護師としての 今後の取り組み 方の習得
救護員としての看護師 養成研修会	7月19日～20日 長岡市	【研修受講者】 長岡赤十字病院 看護師 33人	赤十字救護班看 護師となるため の知識と技術の 習得

名 称	期日・開催地	参加者及び人数	内 容
日本赤十字社 全国赤十字救護班研修会 (第2回)	8月5日～7日 宮城県	【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 1人 看護師 1人 薬剤師 1人 事務職 1人 新潟県支部 事務職 1人 【研修受講者】 長岡赤十字病院 医師 1人 看護師 1人 事務職 1人	災害時医療救護活動に関する講義、実習、総合シミュレーション他
日本赤十字社 全国赤十字救護班研修会 (第3回)	1月27日～29日 東京都	【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 1人 看護師 1人 新潟県支部職員 1人	
日本赤十字社 全国赤十字救護班研修会 (第4回)	2月17日～19日 東京都	【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 2人 看護師 1人 事務職 2人 新潟県支部 事務職 1人 【研修受講者】 長岡赤十字病院 医師 1人 看護師 1人	
日本赤十字社 災害医療コーディネート 研修会（第1回）	9月15日～16日 東京都	【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 1人 【研修受講者】 長岡赤十字病院 看護師 1人	
日本赤十字社 災害医療コーディネート 研修会（第2回）	10月14日～15日 東京都	【研修指導者】 長岡赤十字病院 医師 1人	ワーク、総合シミュレーション他
日本赤十字社 こころのケア指導者養成 研修会（第1回）	12月11日～13日 東京都	【研修受講者】 長岡赤十字看護専門学校 専任教師 1人	こころのケア研修会指導スタッフの養成
日本赤十字社 こころのケア指導者養成 研修会（第2回）	12月22日～24日 東京都	【研修受講者】 長岡赤十字病院 看護師 1人	



日本赤十字社新潟県支部救護員訓練①



日本赤十字社新潟県支部救護員訓練②

3 災害救護装備・資機材の整備

発災後の迅速な出動・展開ができるよう救護員の装備の更新と救護資機材の整備を行いました。

※保有する資機材等の詳細は、資料編：統計「主要救護資材及び装備の整備状況」に掲載

4 救援物資の備蓄と配分

避難所等において被災者が応急的に使用する救援物資の備蓄に努めるとともに、県内で発生した火災等の罹災者に対しても物資の配分を行いました。

※物資の備蓄状況及び配分状況の詳細は、資料編：統計「救援物資備蓄状況」「救援物資交付状況」に掲載

5 災害死亡者弔慰金の贈呈

県内で発生した火災等により亡くなられた22人のご遺族に対し、弔慰金を贈呈しました。

6 災害義援金の受付状況

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

名 称	金 額
東日本大震災義援金	1, 481, 473円
平成28年熊本地震災害義援金	1, 193, 686円
平成28年新潟県糸魚川市大規模火災義援金	52, 953, 591円
平成29年7月5日から的大雨災害義援金	2, 711, 559円
秋田県大雨災害義援金	134, 690円
平成29年台風第18号等災害義援金	342, 492円
平成29年台風第21号等災害義援金	71, 996円
合 計	58, 889, 487円

第2 生命と健康を守る講習

1 講習会の開催

(1) 救 急 法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人（傷病者）を正しく救助し、医師または救急隊員などに引き渡すまでの救命手当、応急手当の知識・技術を普及しました。

企 画 講習名	支 部 ・ 施 設	地 区 ・ 分 区 ・ 奉 仕 団	団 体 依 頼	合 計
	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)
基礎 (単独)	0 (0)	16 (58)	11 (237)	27 (295)
救急員養成 (基礎連続)	2 (61)	21 (217)	14 (458)	37 (736)
短 期	9 (251)	14 (370)	120 (5,794)	143 (6,415)
資格継続研修	1 (3)	21 (308)	2 (31)	24 (342)
合 計	12 (315)	72 (953)	147 (6,520)	231 (7,788)





(2) 水上安全法

水を活用して健康の増進を図るとともに、水の事故から尊い生命を守るための知識と技術を普及しました。

企 画 講習名	支 部・施設	地区・分区・奉仕団	団体依頼	合 計
	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)
救助員Ⅰ養成 (基礎連続)	0 (0)	2 (27)	0 (0)	2 (27)
救助員Ⅱ養成	1 (10)	0 (0)	0 (0)	1 (10)
短 期	1 (17)	1 (0)	9 (657)	11 (674)
資格継続研修	2 (6)	1 (3)	0 (0)	3 (9)
合 計	4 (33)	4 (30)	9 (657)	17 (720)

(3) 健康生活支援講習

健やかな老年期を過ごすための健康維持・増進と、高齢者の自立をめざした介護の方法、認知症高齢者への対応等の知識と技術の講習を普及しました。

企 画 講習名	支 部	地区・分区・奉仕団	団体依頼	合 計
	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)
支援員養成	3 (30)	0 (0)	0 (0)	3 (30)
資格継続研修	1 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (4)
短 期	9 (161)	20 (579)	5 (288)	34 (1,028)
災害時高齢者 支援※再掲	1 (45)	4 (145)	1 (60)	6 (250)
認知症※再掲	3 (30)	8 (210)	1 (36)	12 (276)
合 計	13 (195)	20 (579)	5 (288)	38 (1,062)



(4) 幼児安全法

子どもに起こりやすい病気への対応と、事故の予防や応急手当などの知識や技術の講習を普及しました。

企 画 講習名	支 部		地区・分区、奉仕団		団体依頼		合 計	
	回数	(受講者数)	回数	(受講者数)	回数	(受講者数)	回数	(受講者数)
支援員養成	1	(15)	9	(79)	0	(0)	10	(94)
資格継続研修	2	(14)	4	(25)	0	(0)	6	(39)
短 期	1	(50)	7	(110)	38	(663)	46	(823)
一次救命※再掲	1	(50)	4	(27)	17	(331)	22	(408)
合 計	4	(79)	20	(214)	38	(663)	62	(956)



(5) 防災啓発プログラム

自主防災訓練や研修会を通じ、地域で災害時に備えるために、受講者が希望する時間や内容を選択し、防災に役立つ知識や技術を普及しました。

企 画 講習名	支 部	地区・分区、奉仕団	団体依頼	合 計
	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)	回数 (受講者数)
短 期	0 (0)	3 (150)	10 (531)	13 (681)

2 指導員等の育成

一定の条件を満たした各種の講習指導員が、講習展開や指導技術の質の維持・向上のために、年1回以上の指導員研修会を実施しています。また、指導員は認定証の有効期間（3年）ごとに資格の更新手続きを行います。この内、資格の更新が3回目毎にあたる指導員は、日本赤十字社救急法等講習規則施行細則に基づいて、必要な審査を受けます。平成29年度は、対象者全員が適性と認められ資格を継続しました。

区分・人数	研修会等名称	回 数（開催地）	参加人数	主催者
救急法 (指導員数 154人)	講師研修会	1回（東京都）	3人	日赤本社
	指導員研修会	4回（上越市・長岡市・新潟市・佐渡市）	141人	日赤新潟県支部
	資格継続適性審査	1回（新潟市）	21人	日赤新潟県支部
水上安全法 (指導員数 30人)	講師研修会	1回（東京都）	1人 ※担当者	日赤本社
	指導員研修会	1回（新潟市）	12人	日赤新潟県支部
健康生活 支援講習 (指導員数 14人)	講師研修会	1回（東京都）	2人	日赤本社
	指導員研修会	1回（新潟市）	11人	日赤新潟県支部
	資格継続適性審査	1回（新潟市）	2人	日赤新潟県支部
幼児安全法 (指導員数 44人)	講師研修会	1回（東京都）	2人	日赤本社
	指導員研修会	1回（新潟市）	34人	日赤新潟県支部
	資格継続適性審査	1回（新潟市）	10人	日赤新潟県支部

3 講習イベント

(1) TeNYみんなの防災フェア2017

中越沖地震復興10年祈念として株式会社テレビ新潟放送網（TeNY）の主催で、7月16日（日）に柏崎市駅前公園、9月30日（土）～10月1日（日）にハイブ長岡で実施されました。新潟県赤十字安全奉仕団柏崎市分団、長岡市分団、見附市分団の協力のもと、一般の方を対象に「AED講習」や「風呂敷を使った防災ずきん」、「キッズフォトコーナー」、「救急車への試乗体験」などを行いました。



(2) 介護・健康フェア2017

11月19日（日）朱鷺メッセを会場に、新潟日報社・新潟県社会福祉協議会・新潟市社会福祉協議会が主催した「介護・福祉フェア」のイベントにおいて、日本赤十字社が実施している健康生活支援講習への理解・促進を図ることを目的に参画しました。毛布を使ったガウンやホットタオル等災害時に役立つ、高齢者生活支援のミニ講習を行いました。また「災害通信指令車の展示」等のブースを通じ赤十字活動の理解・促進を行いました。



第3 国 際 活 動

1 日本赤十字社が実施する国際開発協力事業への参加

対 象 国	事 業 内 容	金 額
ケニア	地域保健師及びボランティアを軸とした住民ネットワークの強化等、保健医療サービスへのアクセスを向上させることを目的とした保健衛生事業	500,000円



巡回診療（栄養状態測定）

2 海外救援金の受付状況

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

名 称	金 額
中東人道危機救援金	7,617円
2017年南アジア水害救援金	1,116円
バングラデシュ南部避難民救援金	2,524円
NHK海外たすけあい	8,519,309円
海外無指定救援金	32,042円
合 計	8,562,608円

※「NHK海外たすけあい」は12月1日～12月25日まで、日本赤十字社、日本放送協会（NHK）、社会福祉法人NHK厚生文化事業団との共催で実施したものです。

第4 赤十字ボランティア

1 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、赤十字ボランティアの代表的存在であり、各地における赤十字事業の推進にあたり不可欠な存在です。

新潟県内では、約6,300人の方々が赤十字ボランティアとして活動しており、災害時には、救援物資の配布や義援金の募集など、各種救護支援活動にあたるとともに、日常は高齢者福祉活動をはじめ、赤十字思想の普及や活動資金への協力呼びかけなど幅広い活動に取り組んでいます。

赤十字ボランティアは、あらゆる地域に普遍的に組織されることが求められており、赤十字組織を支え、赤十字の理念を実現するための重要なパートナーです。

(1) 会議・研修会

新潟県支部では、奉仕団活動の推進を図るため、各種の会議や研修会を開催し、活動推進につながる情報提供や各種活動に必要な知識と技術の伝達に努めています。平成29年度においても、会議や研修会を通して、奉仕団活動の活性化を図りました。

※開催状況等の詳細については、資料編「赤十字奉仕団の育成関係会議・研修会」にて記載。



赤十字ボランティア地区研修会におけるグループ発表



青年赤十字奉仕団夏期防災キャンプでの応急手当の実習

(2) 救護・防災訓練参加

赤十字奉仕団の方々には各地域における防災訓練や支部が協力を依頼する救護訓練に参加いただいています。訓練を実施し参加することで、災害時には円滑な救護活動・支援活動を行うことができます。

ア 国土交通省 荒川総合水防演習

期 日 5月27日(土)

会 場 荒川河川敷(村上市)

参加奉仕団 村上市赤十字奉仕団

村上市神林地区赤十字奉仕団

胎内市赤十字奉仕団

新潟県赤十字安全奉仕団村上市分団



赤十字奉仕団による炊き出し訓練

イ 新潟県・上越市総合防災訓練

期 日 9月2日(土)

会 場 新潟県立看護大学(上越市)、関川河川敷(上越市)

参加奉仕団 上越市赤十字奉仕団

新潟県赤十字安全奉仕団上越市分団

新潟県災害救援赤十字奉仕団

ウ その他 各地区分区の防災訓練への赤十字奉仕団による参加

2 赤十字防災ボランティアの育成と養成

当支部では赤十字防災ボランティアリーダー5人、地区リーダー44人の計49人の方々が赤十字防災ボランティアとして登録されています。

赤十字防災ボランティアは、発災初期の情報収集やボランティアのコーディネートにあたり、東日本大震災をはじめとする大規模な災害において、活動を展開しております。今後も、赤十字防災ボランティアの養成・育成を継続し災害時に備えた体制を整えていきます。

(1) 赤十字防災ボランティア活動推進検討委員会

赤十字防災ボランティアの育成や活動内容について検討・協議するため、赤十字防災ボランティアリーダーをはじめとし、各種奉仕団の代表者による会議を開催しました。

(2) 赤十字防災ボランティア地区リーダー研修会(兼 地区リーダー養成研修会)

災害想定下における活動・生活を体験し、災害時の支部救護活動及び赤十字防災ボランティアの活動を理解するとともに、平時における防災・減災啓発活動に必要な知識と技術を習得することを目的に実施しました。

平成29年度は、新たに3人の地区リーダーが誕生しました。

期 日 6月17日(土)～18日(日)

会 場 新潟県赤十字会館

参加者 赤十字防災ボランティア登録者及び候補者 32人



災害ボランティアセンターを想定した
到着報告訓練



情報共有訓練



救護資機材の取扱い実習



グループディスカッション

3 赤十字奉仕団による子ども支援活動

社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者が健やかに成長できるよう、児童養護施設の子どもたちを対象に、青年赤十字奉仕団が中心となって支援活動を行いました。

せきじゅうじ 花絵アクション

期 日 4月22日(土)

会 場 新発田市(花摘み)、長岡市・上越市(花絵作製)

参加者 児童・生徒40人 赤十字ボランティア20人

内 容 児童養護施設(2施設)に入所している児童・生徒と奉仕団員が球根育成のため捨てられてしまう新潟県・市の花「チューリップ」の花を使って花絵を作製しました。



花絵作製の様子



完成した花絵

第5 青少年赤十字

県内の青少年赤十字加盟校（小・中・高校）及びこども赤十字加盟園（幼稚園・保育園）の園児・児童・生徒が学校生活や日常生活の中で、人のいのちの大切さを学び、思いやりの心と自主自律の態度を育むことをねらいとして、様々な活動に取り組みました。

また支部から加盟校及び園に対し、活動に必要なリソースを提供し、活性化を図りました。

1 人材及び教材等の支援

（1）「防災教育」への支援

防災意識を広め高めることのできる青少年を育てるため、防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」の活用を学校教育現場で活用されるよう進めるとともに、防災教育授業、リーダーシップ・トレーニングセンター等に職員や赤十字ボランティアを派遣しました。



ア 防災教育スキルアップセミナーの実施

大規模災害に備えるためには、青少年赤十字指導者である教職員に正しい災害の知識を持ってもらい、学校教育下における防災意識や防災力を学校全体で共に高めてもらうことが重要です。

このことから、青少年赤十字指導者に対して防災意識の涵養と防災学習や道徳の教科化に役立つ情報を提供することを目的に実施しました。



防災教育スキルアップセミナー

(2) キャリア教育への支援

児童・生徒が「夢や目標について自ら考え、課題を見つけ、選択できる力を育てること」を目標に、地域パートナーシップを組むプロスポーツチーム（新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ）からの協力を得て、加盟校へ選手の派遣を行い、特別授業を実施しました。



自分の夢と目標を語る選手



キャッチボールによる選手と児童との交流

(3) 教材及び資材の提供

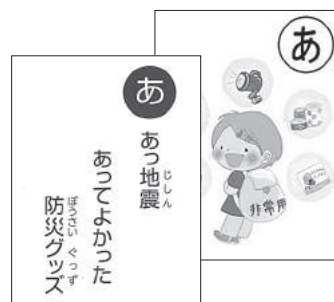
ア 青少年赤十字加盟校に対し、子ども向けの教材（青少年赤十字機関紙）や教職員向け機関紙（指導情報）等の教材を提供しました。

また、こども赤十字加盟園に対し、教材となる絵本を提供するとともに、通園かばんに付けるネームプレートを配布しました。

イ 青少年赤十字加盟校の小学校1年生に対し、災害時に適切な行動をとることができるよう「赤十字防災かるた」を寄贈しました。これは、子ども達が、繰り返し遊ぶことで、読み札の内容を覚え、身につくことを期待し

当支部が独自に作製したかるたです。

また、寄贈用のかるたの他に、「ジャンボかるた」も作製し、県内の保育園、市町村、赤十字奉仕団等への貸し出しを行いました。



2 加盟校等の普及及び活動推進方策の協議

支部嘱託指導講師による学校訪問を行い、青少年赤十字活動の周知と理解促進を図るとともに、本社・第2ブロック支部が主催する会議や研修会に、加盟校等の教職員から参加を得て、今後の活動推進方策について協議・検討を行いました。

第6 広 報 活 動

赤十字の使命と役割、活動内容等について周知し、赤十字に対する県民からの一層の理解と協力を得ることを目的として、様々な広報媒体やイベント等の機会を通じて広報活動を行いました。

1 創立130周年にともなう広報活動

(1) 130周年記念映像の制作

大会中に上映する12分の映像を制作。アンリー・デュナンの想いを起源とした日本赤十字社の誕生、そして新潟県支部の創設にいたる新潟県における「赤十字の成り立ち」を紹介。新潟の地で発展を続け、様々な災害を経験してきた『新潟県における赤十字の今』をこれらの活動に関わる“人”を中心に構成した映像を制作しました。





130周年記念映像 内容

(2) テレビを活用した広報

創立130周年記念大会を含め、赤十字の歴史や取組みをテレビ番組で紹介しました。支援の輪を広げることを目的に、大会に参加していただいた方々やニュース等の報道をご覧いただいた方だけでなく、県民全般に赤十字事業を伝えました。

テレビ局 TeNYテレビ新潟

放送日時 9月23日(土) 11:45～12:00

番組内容 130周年記念映像をベースに、大会当日の様様を交えて構成



番組制作の様子

(3) FMラジオを活用した広報

創立130周年という節目に、あらためて県民の皆様から赤十字事業を知っていただき、継続した支援と新たな支援者の獲得を目的に平成29年10月の4週にわたりFMラジオを活用した広報を実施しました。

赤十字の活動について、普段知りえないことや活動しているなかでのエピソードをパーソナリティとの掛けあいによる軽いタッチで各担当者から県民に伝えました。

放送局 FM新潟

番組名 夕方ワイド番組『Sound Splash』

(パーソナリティ：本間 紗理奈さん)

放送日時等 ・10月6日(金) 17:28～17:33

内 容 赤十字の成り立ちについて(歴史、国際人道法など)

出 演 総務課 主事 小黒 美樹

・10月13日(金) 17:28～17:33

内 容 赤十字の災害救護活動について
(中越地震、中越沖地震の活動エピソード、
県外での救護活動)

出 演 事業推進課長 谷田 健吾

・10月20日(金) 17:28～17:33

内 容 防災・減災活動により命を守る
(防災教育プログラム、黄色い帽子交付事業)

出 演 組織振興課長 山田 文雄

・10月27日(金) 17:28～17:33

内 容 赤十字への支援について(赤十字活動資金)

出 演 組織振興課 振興係長 村山 浩一



FMラジオ生放送の様子

2 広報資材の配布

赤十字運動月間及びイベント等で赤十字PRを目的に配布する広報資材を作製しました。

- (1) 赤十字ポスター、赤十字PRチラシ
- (2) ポケットティッシュ、救急絆創膏
- (3) 赤十字×ハローキティグッズ

3 市町村等との連携による広報活動

(1) 赤十字PRポスターの活用

- (ア) 自治・町内会の掲示板等への掲示
- (イ) 企業・団体等への掲示

(2) 赤十字PRチラシの活用

- (ア) 自治・町内会を通じて、県内全世帯へ個別配布
- (イ) イベントや講習会等を通じて、参加者へ配布

(3) 活動内容等の情報提供

- (ア) 市町村広報誌等へのイベント情報等の提供
- (イ) 赤十字新聞の送付（本社作成 毎月発行）

(4) 赤十字PRブースの出展

(ア) 地区・分区の赤十字デーの行事

- ・ 第20回 新潟市民健康福祉まつり （新潟市一日赤十字デー）
- ・ 第20回 福島潟自然文化祭 （新潟市北区一日赤十字デー）
- ・ 第11回 東区区民ふれあい祭 （新潟市東区一日赤十字デー）
- ・ 第20回 ふれ愛春まつり （新潟市江南区一日赤十字デー）
- ・ 第17回 にいつ花ふるフェスタ （新潟市秋葉区一日赤十字デー）
- ・ 南区風フェスティバル&産業まつり （新潟市南区一日赤十字デー）
- ・ 西っ子ふゆまつり （新潟市西区一日赤十字デー）
- ・ 越後にしかわ時代激まつり （新潟市西蒲区一日赤十字デー）

(イ) 長岡赤十字看護専門学校「むつみ祭」

(ウ) 各種団体、町内会等が実施する行事



イベントでの赤十字事業PR

4 赤十字運動月間におけるマスメディアを通じた広報活動

(1) 県内民放テレビ4局の情報番組内での広報

- ・ T e N Y 放送日時：5月11日（木） 15：48～16：50
番組名：「夕方ワイド新潟一番」内45秒程度
内 容：赤十字運動月間における協力のお願い

放送日時：5月13日（土） 25：00～25：20
番組名：「にいがたメチャカワc h」内180秒程度
内 容：日赤が備蓄する災害時救援物資について

- ・ U X 放送日時：5月17日（水） 18：52～19：00
番組名：「スーパーJにいがた」内180秒程度
内 容：日赤が備蓄する災害時救援物資について

- ・ B S N 放送日時：5月19日（金） 18：48～18：59
番組名：「ゆうなびプラス」内270秒程度
内 容：日赤が行う救急員養成講習について

- ・ N S T 放送日時：5月27日（土） 18：00～18：54
番組名：「スマイルスタジアム」内360秒程度
内 容：日赤が行う高齢者支援講習について

(2) FMラジオでの本社制作CM素材の活用による広報

FM新潟 5月29日～6月23日までの平日7：51～7：59枠内
20秒CM 20本

5 インターネットを活用した広報活動

支部ホームページ等を活用し、タイムリーな情報提供に努めました。

- (1) 当支部主催のイベント告知
- (2) 日赤地区分区が実施するイベント等の告知
- (3) 当支部並びに日赤地区分区が行った事業報告等
- (4) 国内義援金、海外救援金募集案内及び実績報告

第7 交通安全帽交付事業

児童を交通事故から守るとともに、地域、家族ぐるみの交通安全意識を啓発することを目的に、小学校新入学児童に対して「黄色い交通安全帽」を交付しました。

1 交付数 約19,500個

2 事業実施主体 新潟県交通安全帽交付事業協議会
(新潟県、市町村、日赤県支部の三者で構成)



第8 日本赤十字社新潟県支部 創立130年記念大会

1 記念大会の開催

これまで130年の歴史を共に作り上げてくださった赤十字活動支援者の皆様へ感謝の気持ちを伝え、これからも末永くご支援いただけるようお願いするとともに、広く県民の皆様から赤十字活動をご理解いただき、赤十字活動の活性化・赤十字活動支援者の誕生につなげていくことを目的として記念大会を開催しました。



- (1) 日 時 9月16日(土) 12:35～15:45
- (2) 会 場 新潟テルサ(新潟市中央区鐘木185-18)
- (3) 内 容 第一部 記念式典
- ・ 式 辞 日本赤十字社 新潟県支部 支部長 米山 隆一
 - ・ 有功章贈呈、社長感謝状贈呈、支部長特別感謝状贈呈
 - ・ 大会によせるおことば
- 日本赤十字社 名誉副総裁 常陸宮妃殿下
(代読：日本赤十字社 常任理事 竹内 希六)
- ・ 副社長挨拶 日本赤十字社 副社長 大塚 義治
 - ・ 御来賓祝辞 新潟県議会議長 金谷 国彦
 - ・ 災害救護活動報告 長岡赤十字病院
 - 救命救急センター長 江部 克也
 - ・ 創立130周年記念映像上映
- 第二部 記念ステージ
- ・ マーチング演奏 こども赤十字加盟園 さくら保育園

- ・ 記念講演／朗読会 命のつながりを伝える朗読
「さがりばな」～今、私たちにできることは～
女 優 紺野 美沙子
ピアニスト 中村 由利子



(4) 参会者数 915人

(5) その他 ア 赤十字PRブースの設置

赤十字活動パネルの展示、日赤グッズ販売、血管年齢測定、防災商品展示及びサンプル配布、救護資機材の展示 等

イ マスコミへの対応

共同インタビュー（事務局長、出演者）、取材対応
メディア ツアー 等



2 プレイベント

記念大会に先立ち、入院されている患者様やご家族に少しでも元気を与える
ことができたらの願いから、長岡赤十字病院でプレイベントを行いました。

(1) 日 時 9月15日（金） 15：45～17：00

(2) 会 場 長岡赤十字病院

- (3) 出演者 女優 紺野 美沙子 ピアニスト 中村 由利子
 (4) 内 容 ミニコンサート、朗読会、病棟慰問



第9 活動資金の確保

1 赤十字会員の普及推進

平成29年度から社員制度の変更により、社員は会員と協力会員になりました。会員は年額2,000円以上の寄付者で登録の了解を得た方です。協力会員は、会員の資格はあるが登録を希望されない方及び年額2,000円未満の寄付者となります。

平成28年度までは、年額500円以上の寄付者を社員として管理しておりました。

個人会員は、町内会一括納入が多くなったことや寄付先の多様化や個人意識の変化等による要因等で人数が減少しました。

法人会員は、6,000件の新規法人へのDM送付を行った結果増加になりました。

区 分		平成29年度	平成28年度	増 減	前年度比
		(A) 人／社	(B) 人／社	(A)-(B) 人／社	(A)／(B) %
個人	会 員 数	802	400,975	△ 85,883	78.6
	協力会員数	314,290			
法人	会 員 数	2,278	2,168	136	106.3
	協力会員数	26			
合 計		317,396	403,143	△ 85,747	78.7

2 活動資金（会費・寄付金）

協力金収入は、前年度に比して△16.4%、55,207,126円減の281,773,574円となりました。

地区、分区扱いの活動資金は自治・町内会のコミュニティーの希薄化や加入率の低下などによる要因から前年度比より約1千万円減少しました。

支部扱い及び法人については、大口寄付者がいなかったことから、前年度より約4千3百万円減少しました。

活動資金実績額一覧

区 分	平成29年度	平成28年度	増 減	前年度比
	(A) 円	(B) 円	(A) - (B) 円	(A) / (B) %
個人社資 ①	250,608,804	278,699,740	△ 28,090,936	89.9
(1) 地区分区扱	239,762,565	250,137,226	△ 10,374,661	95.9
(2) 支部扱	6,634,839	22,951,042	△ 16,316,203	28.9
(内訳) 寄付金	5,995,533	22,425,723	△ 16,430,190	26.7
募金型自販機	639,306	525,319	113,987	121.7
(3) 口座引落	3,154,000	3,450,000	△ 296,000	91.4
(4) クレジットカード決済	1,057,400	2,161,472	△ 1,104,072	48.9
法人社資 ②	31,164,770	58,280,960	△ 27,116,190	53.5
小 計 ① + ②	281,773,574	336,980,700	△ 55,207,126	83.6
海外救援金 ③ (地方税法指定寄付金) ※	43,444	0		—
合 計 ① + ② + ③	281,817,018	336,980,700	△ 55,163,682	83.6

※支部国際活動基金に積み立てられる救援金については、個人住民税の寄付金税額控除の対象となるため、指定事業社資収入に計上される。

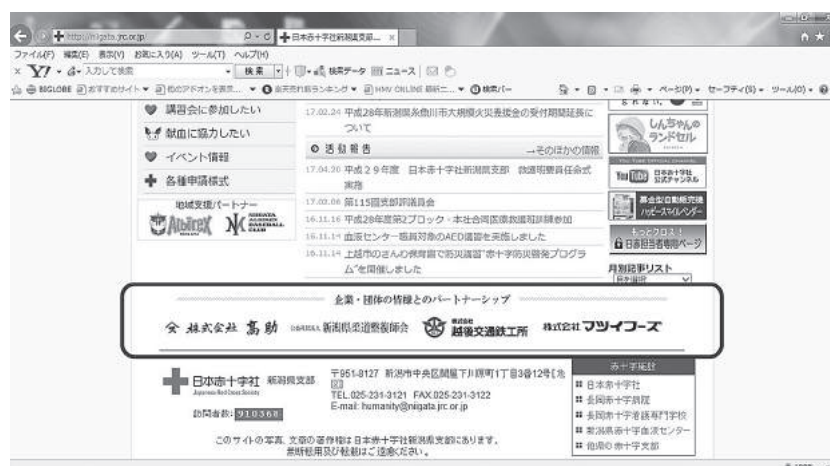
3 企業・団体とのパートナーシップ制度

赤十字活動資金への協力額に応じて、社会貢献プレートの贈呈や当支部ホームページへの掲載を行い、企業・団体の皆様とのパートナーシップによる活動資金の確保に努めました。

- ・社会貢献プレート（協力額3万円以上の企業・団体へ贈呈）
【平成29年度実績：130社（団体）】



- ・当支部ホームページ（協力額10万円以上の企業・団体名を掲載）
【平成29年度末現在：28社（団体）】



4 ハッピースマイルベンダー（募金型自動販売機）

企業との協働により、募金型自動販売機の設置を推進し、活動資金の確保に努めました。

【平成29年度末現在 設置台数：29台】



募金型自動販売機

第 10 医 療 事 業

長岡赤十字病院においては、多様化する医療のニーズに対応しながら、地域医療支援病院や救命救急センター・総合周産期母子医療センター・基幹災害拠点病院等をはじめとする高度で専門的かつ安全・安心な医療の提供に努めてまいりました。

第 11 看 護 師 養 成

長岡赤十字看護専門学校においては、医療に対する国民のニーズが拡大・多様化してきていることから、保健医療の分野で幅広く活躍できる優れた看護実践者を育成し、災害時の救護活動にも対応できる看護師を養成しました。

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	計
学生数（人）	50	47	45	142

第 12 血 液 事 業

新潟県赤十字血液センターにおいては、関東甲信越ブロック血液センターの事業計画に基づき、地域センターの責務である献血の受入推進及び血液製剤の安定供給の確保に重点を置いて、効率的な事業運営に努めてまいりました。

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。